

4月8日（月）入学式式辞

希望の春到来！ 人生は心の持ち様

1902年、明治35年に私立の口之津女子手芸学校が産声を上げ、口加高校の歴史が始まりました。あれから117年。この歴史と伝統に、本日、107人の名前が新たに刻まれました。口加高校の桜の花も皆さんの入学を待っていました。まさに春爛漫、希望の春の到来です。新入生の皆さん、入学おめでとう。今日から皆さん口加高校の生徒です。どうか力強く高校生としての第一歩を踏み出してください。

本日はご多用の中、長崎県議会議員 中島浩介様、南島原市議会議長 林田久富 様をはじめ、多くの御来賓の皆様方、並びに保護者の皆様方のご臨席を賜り、長崎県立口加高等学校の平成31年度入学式を挙行できますことは大きな喜びであり、心から感謝申し上げます。

口加高校が建つこの小高い丘を、あやめが丘と呼んでいます。その由来は、かつて口之津港はあやめが浦と呼ばれており、そのあやめが浦を望める丘ということであやめが丘と呼ばれるようになりました。それにちなんで、本校の中庭をあやめ園と呼んでいます。また10月に行われる文化祭を菖蒲祭と呼んでいます。この本校ゆかりのあやめ。あやめの花言葉は「希望」です。では「希望」とは何か。私は、希望とは「自分の内に燃え盛る熱い思い」だと思っています。では、皆さんにお尋ねします。これから始まる高校生活で「私はこういうことがしたい」とか「自分はこうなりたい」という熱い思いを持っていますか。それこそがあなたの希望です。希望は他の誰かが与えてくれるものでもありません。皆さん自身が希望の灯を灯すのです。先月行った合格者オリエンテーションの時に私は皆さんに一つ宿題を出しました。「何を成すために口加高校に来たのか。」を考えて、自分なりの答えを持って入学式に臨んでください、という宿題でした。その答えこそがあなたの「希望」です。その熱い思いを胸に抱き、努力し、実現させる場所。それが口加高校です。

宝石は最初から宝石ではありません。原石を磨き上げることで美しく輝くのです。人も同じです。どんなに才能があっても努力しなければ光ることはありません。努力することで、自分の内に眠っている才能を引き出し、磨き上げる場所。それが口加高校です。

さて、私にもかつて皆さんと同じ年代がありました。そして今、齢50を過ぎ、思うことがあります。それは、人生は全て自分の心が決めているのではないか、ということです。アメリカの心理学者、ウィリアム・ジェイムズがこう言っています。「心が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる。運命が変われば人生が変わる。」つまり、人生を変えるのは自分の「心」である、ということです。

では、「心」とは何でしょうか。「心」とは物事の捉え方・見方、感じ方、あるいは考え方です。例えばということです。

ある町がありました。一人の旅人がその町にやってきました。町の入り口の門のところに一人の老人が座っていました。旅人は聞きます。「おじいさん、この町はどんな町ですか」おじいさんは聞き返します。「あなたが今までいた町はどんな町でしたか」旅人は答えました。「いやあ、前にいた町は嫌な人ばかりでろくな町じゃなかったよ」「そうですか、この

町もあなたが前にいた町と同じです」

また別の日に違う旅人が来ました。「おじいさん、この町はいったいどんな町ですか」おじいさんは旅人に聞きます。「あなたがこの前にいた町はどんな町でしたか」「私が今までいた町は、素晴らしい町で、人々は親切で、あんなによい町はありませんでした。」「そうですか、この町もあなたが前にいた町と同じです。」この二人の旅人が来た町は同じ町です。その町がどういう町かは、結局、町そのものがどうこうではなくて、その人の心はその町をどう捉えるかで決まるということです。

これから始まる高校生活で、もし「学校もクラスも全然面白くなか」とか「授業も部活もつまらん。」そう思う人がいるならば、実はそれは学校やクラス、授業や部活動のせいではなくて、自分の心が面白くないとかつまらないと捉えているということです。何事も明るい心で前向きに捉えるのか、文句や愚痴ばかりで後ろ向きに捉えるのか、どちらが楽しく、充実した高校生活が送れそうですか。まずは心の持ち様が何よりも大切だということです。

次に「心が変われば行動が変わる。」しかし、心が変わっても行動を変えるには勇気が必要な時があります。例えば、元気にあいさつがしたい、と書いていてもできないとか。授業中に発言しようと思ってもできないとか。そういう人がいるはずで、少しだけ勇気を持って笑顔で「おはようございます」と言ってみませんか。勇気を振り絞って授業中に「私は〇〇だと思います」と発言してみませんか。それを繰り返すことで、いつしか勇気は必要なくなり、私らしい自然な行動になっていきます。今、私たちは巨大なネットワークの中で、周囲の反応が気になる社会を生きています。何人「いいね」を押してくれるかが気になる。おかしくありませんか、そんな人生なんて。24時間人の反応を気にしながら「いいね」を押してもらうために行動するのはやめましょう。

次に「行動が変われば習慣が変わる。」習慣は第二の天性と言われています。歯を磨くのも習慣ならば、磨かないのも習慣です。毎日家庭学習をするのも習慣ならば、しないのも習慣です。何時間もスマホをいじるのも習慣ならば、ほとんど触らないのも習慣です。人間は良くない習慣はすぐに身に付きます。しかし、良い習慣を身に付けるには忍耐強く続ける必要があります。良い行動を繰り返すことで、いつしか忍耐は要らなくなり、私らしい習慣的な行動になっていきます。

最後に「習慣が変われば人格が変わる。」皆さん、人格は自分で作ることができるのです。「もともと私はこういう人間です」とか「中学時代からこうでした」と言うのはやめましょう。また「どうせ自分なんか・・・」という言葉ほど、自分の人格を低めていくものはあません。どういう人格を作り上げていくかで、皆さんの運命と人生が変わるのです。

今日は、皆さんに3つ話をしました。一つ目は「希望」すなわち「熱い思い」を持って欲しいこと。二つ目は、どんなに才能があっても努力しなければ光らないということ。三つ目は、人生を決めるのは自分の心の持ち様であるということです。この3つのことを頭に入れて、高校生活をスタートさせてください。

結びになりますが、保護者の皆様方、お子様のご入学おめでとうございます。教育とは未来です。未来を創ることが教育の役割です。子どもたちの未来の扉を開く場所。それが口加高校です。本日お預かりした子どもたちを教職員一同、大切に育て、育ててまいる所存です。しかし、学校だけではできないこともあります。保護者の皆様方と私たち教職員

ががちりとスクラムを組んで子どもたちを支援してまいりたいと考えています。どうかご理解とご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さあ、いよいよ高校生活の始まりです。まっさらな3年日記に書き記すことは、楽しいことや嬉しいことばかりではありません。時に悩んだり、迷ったり、落ち込んだり、つまづくこともあります。でもそれでいいのです。つまづいたら立ち上がればいいのです。それが人生です。それが青春です。泣いたり、笑ったりしながらがむしゃらに青春の日々と格闘する皆さんに私達は寄り添い、全力で支援します。それが口加高校です。2年生、3年生の先輩たち、後輩をよろしくお願いします。それでは、ただ今から全校生徒267名と共に平成31年度口加丸が船出します。時代は平成から令和へ。時を同じくして、口加高校の新しい歴史の幕開けです。凧の日も時化の日も、オール口加で乗り切っていくという決意を新たにし、式辞といたします。

平成31年4月8日 長崎県立口加高等学校長 狩野 博臣